

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 関東甲信工事事務局入札監視委員会（第16回定例会）審議概要

開催日及び場所		令和5年7月19日（水） 東京支社5階会議室	
委員		村瀬均（弁護士） 西村万里子（大学教授） 【欠席】谷和夫（大学院教授）	
審議対象期間		令和4年10月1日～令和5年3月31日	
工事	抽出案件	件数 0件	(備考)
役務	抽出案件	件数 1件	
	簡易公募型プロポーザル方式	シールド・NATM 接続部詳細設計他（中部地区）	
物品等	抽出案件	件数 0件	
高落札率契約	抽出案件	件数 1件	
	簡易公募型競争入札方式	令和5年度シールドトンネル資材価格調査	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等		意見・質問	回答
		別紙のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容		な し	

別紙（役務）

	意見・質問	回答
1	<p>簡易公募型プロポーザル方式 「シールド・NATM 接続部詳細設計他（中部地区）」</p> <p>①本件で採用した技術者評価型のプロポーザル方式とはどのようなものか。</p> <p>②配置予定技術者の評価について、評価者により逆転現象が生じているが、評価は主観的に行われていないか。</p> <p>③配置予定技術者の評価の着目点について「質問に対する応答性」など曖昧ではないのか。何か具体的な判断基準があるのか。</p> <p>④シールドと NATM の接続部設計というのは定型的な業務ではないのか。そうであれば、本件の契約金額が高すぎるように思える。</p>	<p>①役務内容のほかに概算予定価格を事前公表したうえで、配置予定技術者の資格・経験に関する参加表明者の技術提案についてヒアリング等による評価のうえ1者を特定し、その1者と見積合せを行って契約相手方を決定する方式である。</p> <p>②評価方法は同一であるが、評価者によって重視する着眼点異なるため、結果的に逆転現象が生じているが、主観的に行っているわけではない。</p> <p>③ヒアリング等を行う中で、質問に対する回答が迅速かつ明快、回答が的確といった判断基準を踏まえて評価を行っている。</p> <p>④本件ではシールドトンネルと山岳トンネルの接続部設計であり、それぞれのトンネルの設計・工事方法異なるため、機構としては難易度の高い設計であると考えている。 接続部の詳細設計以外の他の項目も含めての契約金額であり、接続部の詳細設計単独では高い金額ではない。</p>

別紙（高落札率）

	意見・質問	回答
1	<p>簡易公募型競争入札方式 「令和5年度シールドトンネル資材価格調査」</p> <p>①一般財団法人経済調査会以外に参加できる者は他にないのか。</p> <p>②件名が令和5年度となっていることから</p>	<p>①業務内容上、他者が参加することは難しいのではないかと、と思われる。</p> <p>②前回は令和2年度に行っているが、前回と違い</p>

	意見・質問	回答
	毎年度同様の調査は行っているのか。行っていれば、これまでのノウハウを生かすことができるのではないか。	今回は物価高騰によるもので調査環境がそもそも異なることから前回のノウハウを生かすことはできないと考えている。

別紙（その他）

	意見・質問	回答
1	役務、物品等の全体審議 なし	
2	高落札率契約の全体審議 該当なし	
3	一定規模以上の取引関係を有する法人との 契約の全体審議 該当なし	
4	その他 なし	